

アスリートと企業つなぐ

かづの商工会 職業紹介所開設

かづの商工会（大里信明会長）は、スキー選手などアスリートを対象とした無料職業紹介所の事業を始めた。利便性の高さが関係者に知られる鹿角市の花輪スキー場が立地する強みを生かし、選手と会員事業所をマッチングさせ、雇用先確保と事業所の労働力不足対策につなげたい考え。

花輪スキー場は市中心部から車で15分ほどの距離にあり、距離、飛躍、アルペンの3競技が1カ所で行える。利便性の高さから国民スポーツ大会など全国レベルの大会がたびたび開催されている。

アスリート向けの職業紹介事業は、県スポーツ協会が県の委託を受け実施しているが、動きながら現役続



アスリート対象の職業紹介事業のチラシを手にするかづの商工会の職員

花輪スキー場を強みに

会や農協が開設する場合は届け出のみで可能。

経験豊富な選手が鹿角市、小坂町に暮らして勤務すること、地域にとつては競技人口拡大や競技力向上を目的とした教室を開催しやすくなることを期待できる。花輪スキー場でのスキー大会の運営要員確保にもつながるメリットもある。企業側は、競技生活を通じて体力と精神力が充実した選手が継続して勤務することが期待できる。

会員事業所（約8000人）からの求人登録を受け付けるところ。現在、10社が登録の希望を示している。2月に花輪スキー場で開かれる鹿角国スボや、隣県でのスキー大会で選手にチラシを配布し、事業をPRする方針。

商工会企業支援課の岩井寛樹課長は「職業紹介所の開設をきっかけに事業所の労働力確保につながってほしい」と話している。

（本多恒顕）

ジャンプ選手採用の会員企業

かづの商工会がアスリート対象の無料職業紹介所の事業を始めた背景には、理事を務める会社社長からの提案があった。この会社では2023年、スキージャンプの選手を採用した。社長の男性は、企業側と選手の条件をすり合わせる重要性を指摘する。

会社は、鹿角市、小坂町などでLPGガスや灯油の販売を手がけるハタリキ（畠山佑介社長）。ジャンプの選手をし

ている小山内鴻佑さん（28）を23年5月から雇用している。

小山内さんは花輪高2年だった14年、山形国体の少年男子純飛躍で3位に入った。大学卒業を機に一度引退したが、子どもたちに指導するうちに現役復帰への気持ち芽生え、県スポーツ協会のテクニカルアドバイザーなどをしながら競技を続けてきた。ハローワークを通じて23年、ハタリキに応募。畠山社長（55）

「条件すり合わせが重要」

との面接の際、ジャンプ競技を続けたい意向を伝えた。

畠山社長は大会出場のための休暇制度が社内がないことなどから、当初は選手を続けることに難色を示した。しかし、小山内さんの「後輩の指導や競技運営にも携わりたい」との思いを聞き検討。必要な条件を小山内さんと相談し、通常の10日程度の有給休暇に加えて20日間追加で休めるよう条件を整えた上で採用した。畠山社長は「将来的に会社の柱になってもらうことを見据え、会社にもプラスになると考えた。誠実な人柄で、業務に一生懸命当たってもらっている」と語る。

小山内さんは現在、予定を調整しやすいLPGガスの法定点検の仕事をしている。夏と冬に2大会ずつ出場している。「先輩からの『頑張れよ』の声が励みになる」と話す。

商工会の事業について小山内さんは「選手が鹿角に戻ってくる第一歩になる制度。知り合いの選手に事業を紹介するなど協力できることがあればほしい」と話す。

畠山社長は「人手不足に悩む企業のためにも、地域のためにもなる。企業と選手がお互いの求める条件を相談することが大事になると思う」と話した。



畠山社長と話す小山内さん（左）